

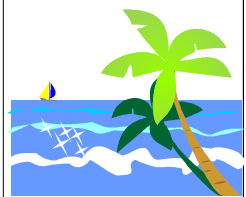


す が お

No.47

養護老人ホーム
松楓園 情報誌

夏を満喫!



梅雨も明け、日に日に暑さが厳しくなっている中、夏季五輪の熱気にも負けないくらい松楓園の利用者の皆さんは元気な日々を過ごしていらっしやいます。

利用者サービスについては目標を「1%の工夫」と掲げ、行事・クラブ・グループワーク活動の企画と実施に取り組んでいます。日常生活では、利用者の生甲斐作りと自立支援を目的とした様々な活動を行って居り、先日は夏のつどいの際に園芸で収穫したジャガイモを味わって頂きました。グループワーク活動の手芸・季節交流では、季節

感を味わって頂けるよう日々活動しており七夕には、笹飾りを作り短冊に願いを込め笹に飾りました。介護予防を目的としたサービスでは、専門講師による週一回の体操教室の実施・朝の体操と散歩を行い健康維持に努めています。また、脳の健康教室では、七月に第六期の修了式を行いました。

地域との関わりも大切にしており、毎年、あきる野市から依頼を受け灯笼作りを行っています。今年も千三百基の灯笼を作っている所です。また、秋多中学校の生徒さんが大切に育てた「い

のちの朝顔」を預かり育成したり、地元の盆踊りに参加するなど、地域との交流の機会を大切にしています。

まだまだ猛暑が続いて居りますが、体調を崩すことなく無事に夏を過ごせるよう、水分補給の声掛けと体調確認を行いながら快適な生活環境の提供が出来る様、職員一同、創意工夫を続けて行きたいと思っております。

主任支援員 徳川



梅雨が明け、7月19日(木)夏のつどいをホールにて行いました。この夏のつどいは例年行われています。これから続く暑さの中で皆様の英気を養いこの暑さに負けず、元気に過ごして頂く事が目的です。又、6月に行われた全員対象の居室移動(部屋替え)でのお疲れ様会も兼ねさせて頂いております。お囃子や盆踊りの音楽が流れる中、手作りの風車やヨーヨー釣り・綿菓子を用意し夏祭りの雰囲気味わって頂きながら、冷えたスイカ・稲荷ずし・お団子・シャーベット・お菓子などを召し上がって頂きました。皆様より「懐かしい」「お祭りを思い出すよ」との声を頂きました。



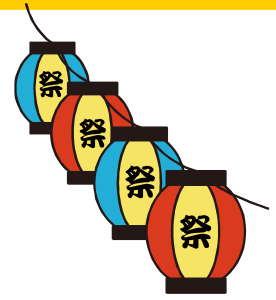
夏のつどい



夏の集いでは、GW園芸で収穫したジャガイモを茹で皆様で頂きました。GW園芸の皆様、ごちそうさまでした。美味しかったです。

毎年恒例のスイカ割りでは、皆様の「右よ」「もう少し左」「もっと前」等、応援の声の中、賑やかに盛り上がりました。無事スイカが割れた時には、大きな拍手がわき、にこやかな笑顔が沢山見られました。





盆踊り

七月二十八日、地元の菅生町内会より盆踊りの招待を受け、参加してきました。毎年恒例の行事として利用者の方々も楽しみにしています。菅生町内会の方々は顔見知りの方も多く、「よく来たね」「今日は楽しんでいてね」と温かい言葉をかけていただき、ビールや焼き鳥なども振る舞って頂き、楽しい時間を満喫してきました。

八月三日には地域交流として、菅生町内会の方々に施設に招待して、交流会を予定しています。

地域とのふれあい

いのちの朝顔



七月八日 秋多中学校の生徒さん六名が来園し、いのちの朝顔を受け取りました。松楓園では毎年、「いのち」を尊ぶ思いに感銘し秋多中学校の生徒さんより「いのちの朝顔」と言う朝顔をお預かりしています。

このいのちの朝顔については、平成六年に秋多中学校で勤めていらした先生が亡くなられた後、机の中から十二粒の朝顔の種が見つかりました。生徒さん達が先生の思いを受け継いでいます。その朝顔を育てると言う事は「いのち」を考え、「いのち」を学ぶ大切な存在として、利用者皆さんと大切に育てています。



青木 浩世 様

梅雨明けの晴れ間にのぞくあじさいの
心も洋がる大輪の花

綿飴や夏の集いに故郷恋ふ

マンゴーの庭に涙別終戦忌

森阪ヤエ 様



利用者投稿コーナー

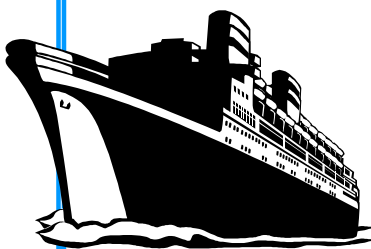
『六十余年前の追憶』

宍戸 巖 様

当時、自分は在満遼陽国民小学校の三年生でした。当日、朝、登校すると、担任の先生から今日から学校はずっと休校になる。と言う事でした。その理由は大東亜戦争に負けたからだと言う事でした。帰宅して母に話しをすると、日本が破れる訳がないと怒られました。そう言われると自分としても毎日の様に退役軍人の配属将校の人から、竹槍でB29を突き落とす訓練の指導を受けたり、日本は神国だから神風が吹くと言う考えが何だったのかと思ったりもしました。それから毎日が死との格闘でした。国府軍(蒋介石)と八路军(毛沢東)、それにソ満国境から侵攻してきたソ連軍とで毎日が戦闘状

態となりました。我々日本人は食を得る為に、兵隊の指導で行動したり、売れる物が見つければ何でも売ったりしたものでした。

昭和二十一年に入ってから、帰国と言う希望が出てきました。でも、それが大変でした。貨物列車に詰め込まれました。今迄は、特急アジア号等でしたのでビックリしました。移動も完全にあなた任せのケセラ、セラの状態でした。何とか葫蘆島に着いて、今度は米軍の輸送船に詰め込まれました。玄界灘経由でやっと博多へ上陸しました。それから何日かたつて父の田舎の福島へ帰れたのです。田の稲は大きくなりました。七月頃だったと思います。今になって思うと、悪夢の一頁だったと考えられます。





六月十七日、華道クラブ講師の加藤先生・田中先生に「お茶会」に招待をして頂きました。毎年恒例の催しとして、利用者の方々は楽しみにしています。



厳かな雰囲気の中で緊張気味の利用者の方々でしたが、先生方がいつもと変わらぬ優しい笑顔で迎えて下さり、「お茶会」を満喫する事が出来ました。非日常の雰囲気味わいながら、古き良き日本の作法・風習を体験し、充実した一日を過ごす事が出来ました。

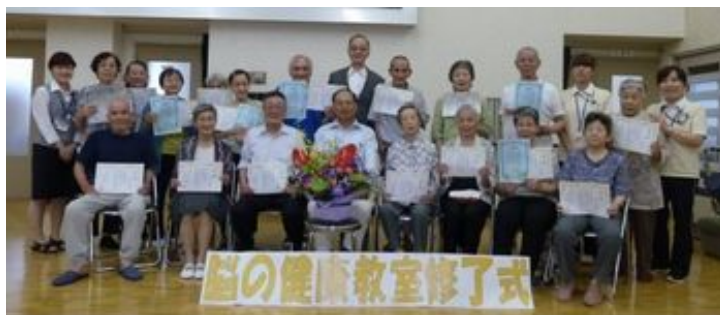


脳の健康教室終了式

脳の健康教室を開始し四年が過ぎ、七月十一日には第六期の修了式を行う事が出来ました。今回は途中体調を崩す方も居らず、十八名全員が修了する事が出来、大変嬉しく思っております。また十名の方が皆勤賞でした。修了証・皆勤賞をお渡しした時の嬉しそうな表情が、とても印象的でした。

次回、第七期も実施する予定となっています。

今回は第二期より長年に渡り、ボランティアでサポーターをして頂いている、徳永様に感謝状とお花を贈呈させて頂きました。お花を手にした時には照れ臭そうな様子でした。利用者からは、「徳永さんと話しをするのが楽しみなんです。」との声もあり、これからもお元気でサポーターとして来園して頂けることを楽しみにしています。





七夕飾り

今年も「七夕飾り」を行いました。手作りの飾りと、利用者の方々の願いがこもった短冊が、風に揺れています。



今年もグリーンカーテンを

作りました

今年も節電活動の一環として、日よけの為にゴーヤを植えグリーンカーテンを作りました。五月半ばにゴーヤの苗を利用者の方と植え、「夏が待ち遠しい」等の話が聞かれました。七月に入ると成長したゴーヤが網に絡まり始め、まだまだ日よけとはいきませんが順調に成長しています。利用者と共に、毎日ぐんぐん伸びるゴーヤの成長を楽しみながら、グリーンカーテンの完成を待ちわびています。

支援員 鈴木



〔行事予定〕

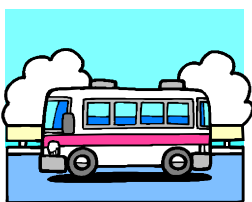
敬老祝賀会

九月十二日に「敬老祝賀会」を予定しており、利用者の方々の長寿のお祝いをします。敬老週間として、様々な催しも企画しています。

利用者旅行



九月二十七日～二十八日で利用者一泊旅行を予定しています。今年は長野県方面を企画しており、利用者の方々も楽しみにしています。



【編集後記】

夕暮れの涼しさを期待しつつ日中の猛暑を耐えしのぶ毎日に、園庭の草花もしおれがちです。そんな草花の手入れをする利用者の中には、雑草が元氣一杯の瑞々しい葉を茂らせていました。ストレス社会といわれる現代を、この雑草のようにたくましく成長していければと思いました。

広報誌編集委員会

発行者 社会福祉法人松楓会
 養護老人ホーム松楓園
住所 東京都 あきる野市
 菅生1159番地
電話 042-558-7010 (代)
<http://www.showhoen.jp/>